

Topics

がん哲学外来

コーディネーター養成講座

～受講生を募集中～

テーマ：がん哲学外来コーディネーターの社会的ニーズと役割

日時：12月17日(土)～18日(日)

場所：がん哲学外来研修センター

17日(土) 受付 13:00～

<学習会> 13:30～18:00

講座 1 「朗読の力・言葉の力」

軽井沢朗読館長 青木 裕子

講座 2 「暇げな医者が信州大学でやっていること」

信州大学医学部准教授 櫻井晃洋

講座 3 「がん哲学外来に望むこと～患者・記者の視点から～」

読売新聞社編集局社会保障部
本田 麻由美

<夕食交流会>

<グループ検討会> 19:30～

研修センター運営委員長

北澤彰浩

総括：青写真の提示

研修センター長 樋野 興夫

18日(日)

8:45～10:00 「佐久宣言」

樋野 興夫・北澤 彰浩

10:15～11:30

特別講演「病者に寄り添う心」

鹿教湯病院名誉院長 市川英彦

11:30～12:00 講座学習まとめ会

第10回 メディカルカフェ in Saku



第10回は新装?なった研修センターで開催。14名の方が参加されました。～Rさんの感想より～
メディカルカフェは会場が変わって広いお部屋でハーブ茶とお菓子が用意されていて心が癒やされました。そして参加者全員が同じ立場で自分の思いを話され、とても和やかな雰囲気でした。

メディカルカフェとの出会い

篠原 恵美子

父のがんから14年経ち、遠回りをしながらですがメディカルカフェとの出会いはそうした道のりを導かれるようにして、ようやく辿り着いたと思っています。

10月23日のシンポジウムのパネリストとして出させていただくことになり、あらためてそれまで考えてきたことを自分のなかで整理する作業にとりかかりました。すると、記憶違いや思いこみに気が付き気持ちが整理でき、さらに新たな気づきを得ることができました。

それはメディカルカフェで出会った人たちの経験談や現在治療中の方たちの話を聴き、明るく前向きに生きているその姿に触れたとき、病気をしていない私が支えとなることなどおこがましいのではないかと思います、立ち止まったことでした。よくよく自分と向き合い、自分に問い返しながらかシンポジウムを迎えましたが、私が支えようとする人の存在が私を支えてくれていて、それは同情や憐みなどではなく、同じ人間として相互に支え合っていることにあらためて気づき、私はどのような姿でそこに立ち現われなければならないかを考えさせてくれました。

樋野先生の著書「がん哲学」のなかに、新渡戸稲造の言った言葉の引用があります。「優雅な感情を養うは、他人の苦痛に対する思いやりを生む。しかして他人の感情を尊敬することから生ずる謙遜・慇懃の心は礼の根本をなす」。これだな、と思いシンポジウムを私の一区切りとし、患者・家族の立場ではなく一市民として自分にできることに取り組もうと、また一步を踏みだすことができたと思っています。

第11回 メディカルカフェのご案内

日時：1月21日(土) 14:00～16:00

場所：がん哲学外来研修センター

テーマ：「新しい年を迎える喜びと語り合い」

～がん哲学を読んでみよう～



がん哲学外来研修センター

〒385-0046

長野県佐久市前山321-3

Tel : 0267-63-5369

mail : kenkokobo@hb.tp1.jp

HP : www.kenkokobo-saku.net



<おしらせ>

樋野先生の著書「がん哲学」が、青木裕子さんの朗読によるCD制作の方向で、準備が進んでいます。

